

平成21年度

市の主要事業のあゆみ

経済成長戦略策定

《経緯・趣旨》

現状のままでは推移すると、平成31年度には市内総生産が平成19年度(2,801億円)比で少なくとも約224億円(8%)減少するなど、非常に厳しい地域経済情勢が予測され、税収減などにより、公共サービスを維持できなくなる恐れがあります。

この状況を打開するために策定しました。

《平成21年度の取組み》

■平成21年11月 豊岡市経済成長戦略策定

「豊岡市経済成長戦略会議」(経済界・産業界などの代表者で構成)から戦略の提言を受け、今後10年間で重点的に取り組む15の戦略プロジェクトなどを盛り込みました。

《戦略の概要》

■目指すべき将来像

環境都市「豊岡エコバレー」

■目標数値

平成19年度の市内総生産か

ら約65億円(2.3%)増の経済成長を図ります。

■基本戦略

○豊岡の特色を伸ばし、他地域との差別化を図る。

- ・環境経済型企業の集積
- ・エコハウスの普及
- ・地産地消やエコツーリズムの推進
- ・バイオマスの推進など

○豊岡の課題を克服し、解決に向けてアクションをおこす

- ・域外からのマネーの獲得を拡大する。
- ・域内の経済循環を高める。(域外へのマネーの流出を縮小)

《今後の予定》

「豊岡市経済成長戦略会議」で、経済成長戦略の進行管理を行い、「豊岡市事務事業評価」で各プロジェクトの効果の評価・検証します。

戦略プロジェクトは、市・関係機関・団体が連携しながら推進します。

※本計画の詳細は、市ホームページの「経済成長戦略」をご覧ください。

幼稚園・保育所のあり方計画の策定

《経緯・趣旨》

幼児期は、子どもたちが健やかに育ち、人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。

市では、より良い就学前の教育・保育を推進するために、計画を策定しました。

《平成21年度の取組み》

■平成21年10月 豊岡市における幼稚園と保育所のあり方計画策定

豊岡市幼保対策審議会から豊岡市の幼稚園と保育所のあり方についての答申を受け、市民説明会や地域懇談会などを開催し、教育委員会において検討し、まとめました。

《計画の概要》

■計画期間

平成21年度～27年度

■主な内容

園児数の減少や園舎の老朽化、在宅4歳児の集団生活の場がないなどの課題や本市の就学前の教育・保育の現状を踏まえ、幼稚園・保育所の目指すべき基本方向や具体的方策を定めました。また、幼稚

園と保育所の新たな編成や年次計画を示しています。

○計画期間内でも、対象園児数の推移や小学校との関係などを踏まえ、あり方についての必要な検討を行います。

《今後の予定》

編成案の具体化に向けて、引き続き、地域や保護者、関係社会福祉法人などの協議を行うとともに、計画年次の早い地域から、順次、地域説明会を開催します。

《現在の検討中のもの》

○認定こども園の運営制度

・5月末を目途に決定します。

○「就学前のスタンダード・カリキュラム」の策定

・市内いずれの幼稚園、保育所、認定こども園においても、質の高い教育・保育を提供するために、10月末を目途に策定します。

※本計画の詳細は、市ホームページの「子育て・子ども情報」をご覧ください。



公共交通活性化

◆e¹通勤プロジェクト

《経緯・趣旨》

市内の路線バスや鉄道などの公共交通の利用者は、社会の進展や少子化などにより年々減少しているため、市では「乗って守ろう」を合言葉に、公共交通を守り次代に引き継ぐ取組みを展開することになりました。

《平成21年度の取組み》

■市職員が率先してe通勤

民間6事業所も参加
平成21年3月末では、市職員の公共交通機関通勤者は6人であったが、12月には250人に増加しました。

※取組みは、新聞やテレビなどでも取り上げられ、市内外に取組みの趣旨や必要性を発信できました。

《今後の予定》

さらに利用しやすい環境を整え、全市的に「e通勤の輪」を広げていきます。



新庁舎建設事業の推進

《経緯・趣旨》

市役所本庁舎は昭和2年に建築されたもので、建物の老朽化、事務室の分散化や事務スペース、駐車スペースの不足によって、市民サービスと事務効率の低下が懸念されています。

このため、新庁舎建設を検討し、平成20年度に新庁舎建設基本構想・基本計画を策定しました。

《平成21年度の取組み》

■平成22年2月 新庁舎建設基本設計完了

北但大震災の復興シンボルとして建築され、80年以上の間、皆さんに親しまれてきた現本庁舎を保存・活用します。

《設計の概要》

■現本庁舎の活用

- ・1階 交流センター
前面の市民広場とともに交流・にぎわいの場
- ・2階 議場
豊岡市政の歴史を刻む場
- ・3階 建築基準法上、活用することに制約があるため、国や県と協議中



▲新庁舎のイメージ図

■新庁舎の階層概要

- ・1階 市民課や税務課など（来庁者の多い部課）
- ・2階 経済部やコウノトリ共生部（来庁者の比較的多い部課）
- ・3階 市長・副市長室および防災課（災害時の中枢機能）など
- ・4階～6階 他部課の執務ゾーン
- ・7階南側 議会ゾーン

《今後の予定》

今年度は、平成24年度末の新庁舎完成に向けて、より詳細な実施設計に取り組みます。また、建設工事の事前段階として、仮庁舎へ移転します。

総合健康ゾーン整備



▲ラウンジでクライミング

《経緯・趣旨》

豊岡病院の移転に伴い平成18年に策定した「豊岡病院跡地利用基本計画」に基づき、健康増進拠点機能と保健・福祉・医療機能を連携させた総合健康ゾーンとして整備することになりました。

長期にわたり効率的かつ効果的な事業運営を実現するため、設計・工事監理、建設、維持管理運営を一括して委託する公設民営（DBO）方式を採用し、平成19年度は事業者選定、20年度は、豊岡病院旧第6病棟を改修する健康福祉施設を含む設計を行いました。

《平成21年度の取組み》

- ・4月 総合健康ゾーン整備工事着手
- ・7月 健康福祉施設建築工事、機械設備工事、

◆「ターゲット70」

《経緯・趣旨》

「人」「物」「情報」が集中する首都圏と但馬を直接結ぶことは、人口減少時代にあつて、大交流実現に結びつくことであり、地域活性化に大きく寄与することです。

そこで、コウノトリ但馬空港から東京への直行便の実現に向け、「但馬伊丹路線」の利用率（搭乗率）を70%にする取組みを行ってききました。

《平成21年度の取組み》

■「但馬伊丹路線」の利用率を70%にする取組み継続

■東京直行便の航空会社確保の取組み

羽田空港は、これまで小型機の発着が認められていませんでしたが、今秋の第4滑走路の供用開始に伴い「地域主体の小型機による新規路線開設枠」1枠の配分が決まりました。

今後、市民の健康増進施設として利用推進を図ります。

《施設の概要》

- ・9月 電気設備工事着手
- ・11月 総合健康ゾーン健康増進施設の設置及び管理に関する条例制定、指定管理者指定
- ・12月 施設の愛称公募
- ・3月 愛称が「ウェルストーク豊岡」に決定
- ・3月 健康増進施設および健康福祉施設建築工事など竣工

《今後の予定》

4月から、指定管理者による施設の維持管理運営がスタートしています。

《今後の予定》

○屋外には多目的コート

○プール、フィットネススタジオ、マシニングムの最新施設を整備



▲マシニングムでのトレーニング風景

《今後の取組み》

東京直行便の実現には、但馬地域の航空需要が旺盛であることを目に見える形でアピールする必要があります。「但馬伊丹路線」のさらなる利用推進を図ります。